

シ・バ・ジ・ハ・マ

脚本／北島 淳

原作／古典落語「芝浜」



とき

現代、またはそれに準ずる時間

ところ

一輪の花が咲く浜辺

ひと

男

女

娘

花

太陽

警官

〔注〕・傍線を引いている部分は、本来発話するべき役のために用意された台詞だが、花が盗む部分として指定しているところ。

・台詞の段組みが二段組みとなっている箇所は同時に進行することを想定している。

◎ 浜の情景（ただし、具体的に浜を示すものはあってもなくともかまわない）
そこに、女と娘の生活に必要なものが一式収まっている奇妙なヘンチがある
種々の花が天井から、あるいは舞台の床からひとところに向かって伸びている

【開演前】

開演より前に花役の俳優が担当スタッフとともに出てくる

担当スタッフは俳優と花をつないで固定し、俳優を花に仕立てる作業を行う
(あくまで開演前なので、これ以外に制約はない)

作業完了後、担当スタッフによる確認が行われる

花が完成したことを確認した担当スタッフは、俳優に対して発声を促す

【一幕】

花 (大きく) シ!

花はどうにも満足する声が出なかつたようだ

担当スタッフは花の発声を確認するや、その場を立ち去る

花 …シ…………シ…………シ!

担当スタッフの退出とともに、花を残してすべての照明は灯を落とす

花はどうやら得心する声が出せたようで、満足げな表情を見せる

…シ…………シ…………シ!

花 バハマ!

波の音が一度、聞こえる

少しの沈黙

…… (呼吸を整え) ハマ…。

花

波の音が二度、聞こえる

いつの間にか女がベンチに座り、ヘーゲルを読んでいる

花 女 花

まだ明けそうにない夜の真ん中、浜に……いる？……（何度かうなずき）いる。
誰が？

暗闇っていうのは、ない、ってことだ。そう考えることにためらいはない。私はまだ明けそうにない夜の真ん中で、両脇をしつかと闇に抱えられて浜に……いる……たじろぐ……」
ともなく。耳を澄ますまでもない、聞こえてくるのは

波の音が間断なく聞こえるようになる

太陽が現れて、朝日の上がる方向へと歩いていく

（次第に早口に） やがて空が白み、そして海の色を明らかにする。前を見れば青く、後ろはやつぱり暗くて怖いから見ない。私を赦そうとする仄暗さの中で、引いては寄せてまた碎かれる波のしぶきと、松原のやたら大きな影だけがくつきりと見える。

花

太陽

おはようございます。太陽です。：
そう、僕の挨拶はほとんど例外なく「おはようございます」なんです。なにしろ、1日のうちで僕が最初に目にする風景のそこは、すべからく朝なんですから。

花

太陽

太陽はのべつ幕なしに光を振りまいちまうから隈がない。隈、っていうのはつまり影のことだ。けれど、そんな太陽だって思わず隈を作ってしまうことが1日のうちに2回ある。：ひとつは朝日だ。実際のところ、それは上がりきるちょうど手前が一番明るい。すうつ、…と白けて…：

女は煙草を取り出し、口にくわえる

花

息が切れたらしい花はおおげさに息を吸い直す
女はライターで煙草に火をつける

花

そのあとひょっこり顔を出す！

一気にまくし立てた花は息を切らしている

次第に波の音が小さくなり、溶明

朝

女はベンチに座り、煙草をふかしながら夢中でヘーゲルを読んでいる
女は頭にピーヒヤラ（吹きもどし）が付いた「機嫌なカチューシャ姿である
(この限りでなくともかまわない)

浜には花が一輪咲いている

そうした浜の風景を朝日の位置から太陽が照らしている
浜にそよぐ風が二度、花を撫でてゆらす

（風が吹く度に小さく）そよそよそよ……

花

大きな風が吹く

女は風を嫌がり、煙草を消してさらにヘーゲルに熱中する

（大きく風に当たり）そよそよそよそよ……

花

男が何かを探す様子でいそいそと現れる

男
ない……ない……ない……ない……

男

男はあたりを一回りして、そのまま出て行ってしまう

男が花のそばを通るとき、花は「そよそよ……」と少し風にそいで傾く
間

女は男が出て行った方向を見やつている

（元の体勢に戻りながら）そよそよそよ。

（再びヘーゲルにかぶりつく）

おや、珍しい。お客様ですか？

：おう、久しぶりだね。

（意に介さず）んー、誰だろね？
（意に介さず）んー、誰だろね？

もしもーし。

太陽

花

太陽

花

太陽

花

太陽

花

男が再びぶつぶつと言いながら現れる

しかし、もはや何かを探している様子でもない

男
ない……ない……ない……ない……

花 女 男 女 太陽 男 花 女 男 花 女 男 花 女 男 花 男 花 男 花

（深いため息をつく）
そよそよそよそよ……おお、びっくりした。（ちいさく、戻りながら）そよそよそよ……
(右側を見て)……ない。（左側を見て）……ない。（海側を向いて）……ない。……
(少しの心構えのあと、の方を振り向きながら)な……

……
：ね、あんただれ

男が振り向いた時、女は頭のピーヒヤラを思いつきり伸ばしている
その様子を見た男は女を諦め、花のところへと向かう

あの、すみませんが。
ちょっと。

なあに？

（強く）なぜ？

……
：いえ、知りません

（ため息をつく）

……いらで、お財布を見かけませんでしたか？ お金の入った……

けれどそよそよそよ……おーい。

（女の方を見て）何です？

あなた、何をされてるんです？

ええ。財布を探しています。

あなたは、それが何だかおわかりですか？

何

つて、ご覧のとおりのお花ですよ。

だつたら、どうしてそんなことするんです？

だから、いつたい何です？

だつて、今あなた

お財布を探している

男はあたりを一回りして、今度は花のすぐ後ろで立ち止まり、がっくりと肩を落とす
女は読みかけのヘーゲルをベンチに置き、男を注意深く観察している
花も、男の方を探っているがどうにも位置が悪く見えないようだ

つておつしやいましたね？

ええ、申し上げました。

さらに、あなたが話しかけているのは

ご覧のとおりのお花

だともおっしゃつた。

それがどうだつて言うんです？

あ、そういうこと。

であれば、ノーノにれつきとした

くんですか？

私の勝手じやありませんか。私が、どれに何に聞いたつて……なんぞく、あなたに何を聞かなくつたつて

私を馬鹿こしてゐんでしょう。

は？

あかね

太陽に向かって 一 黒鹿丸

轟うよ。

二
五
七

見て、さうすう。あは

ない、ない：

二二二

に大きなため息までおつきになつた。にもかかわらず、あなたは私と目が合つた途端に踵を返して……私、見たんですから。

どうやら誤解があるようだ。私は何もあなたをそのように思つておりませんし、そもそも私はこう見えて自分のことを

理解の深い男だ

と自負しています。ですから、あなたが個人的な趣味でその・頭にピロピロしたものを持つていたり、よしんばそれを伸ばしていたからと言って、私は決して差別などしない。

別に好きじやありませんよこんなもの。
(カチューシャを投げ捨てる)

間

女 男 花 女 男 女 男 女 男 花 女 男 女 男 女 男 花 女 男 女 男 女

私のこと、馬鹿にしてらしたんでしよう？

……それは、

あなた、少し決めつけが過ぎます。

……すみません。

馬鹿だ

とか 趣味だ

とか

……ええ、たしかにあなたとその……ナントカゲルさん
ヘーゲルさん。
……ええ、たしかにあなたとその……ナントカゲルさん
ヘーゲルさん。
……ええ、たしかにあなたとその……ナントカゲルさん
ヘーゲルさん。

……わかつていただけました？

太陽 おお。（拍手を送る）
花 （サムアップして応える）
太陽 お見事です。

太陽 お見事です。

太陽 お見事です。

あなた、ヘーゲルさん知らないんですか？

ええと……お知り合いでしょうか、あなたの。

（本を取り上げて）

ヘーゲルさん

……ええ、たしかにあなたとその……ナントカゲルさん
ヘーゲルさん。

本？

ヘーゲルさんさえ読めば、あなたの勝手な決めつけがいかに世界の何もつまびらかにしないかを明らかにしてくれます。（ページをめぐりながら）いいですか、つまり……、

いえ、大丈夫です。

……え？

……ええ、たしかにあなたとその……ナントカゲルさん
ヘーゲルさん。

……ええ、たしかにあなたとその……ナントカゲルさん
ヘーゲルさん。

ヘーゲルさん

……ええ、たしかに私は少し、決めつけが過ぎていたようです。

……わかつていただけました？

ええ、わかりました。

じやあ、お伺いしましょう。

.....
え?
。

卷之三

わかりました

つて決めつけをお捨てになつた。それなら、私に聞きたいことがあるんじやありません?

…しかし……よろしいですか？

私 そんなお花なんかよりは すつと有意義なお答えを差し上けることができると思うんです。

…なるほど。それでは、

張り切つてどうぞ。
太陽
まあまあ、

ええ、あのー…。ここいらで、お財布を見かけませんでしたか？

（最初はとぼけて、次第に乗り気に） …お財布？ …どんなお財布かしら。

ええ、お金の入った。

それはそうでしょう。

黒い、革財布なんですが。

黒い……革の……お財布？

そんなんです
どこがで落としてしまったらしくて

レーナーの妻の手に、

日記の記述とその評議

ニレジ、驚かレバ、アレニ

卷之三

なんと、42万円も入つていたんですね。

（いっさい驚かずにただうなづく）

あ、あの……42万円分くらいは驚いていただいても結構です。

ありがとうございます。
（てとく演技で） まあ
そんかい、

いえいえ。

つまり、これはなげなしの全財産なんです。だから私、必死なんです。

よくわかります。（再び強く同調しだす）

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男

わかつていただけますか。いやあ、嬉しいな。：ああ、先ほどは勝手をして申し訳ありません。

せん。
勝手？

ええ、本当に失礼な決めつけをしてしまった。私、今だから申しますが、実は先ほどあなたがその：頭のピロピロをビヨーンとしていたときにですね、

ええ。

あ、これはまずい人に出会つてしまつた。

そう思つたんです。

まあ。

では、あらためてお伺いを差し上げます。

はい。

つまり……見ませんでしたか？ 私が落としたお財布を……そう、革でできた黒色の、42万円が入つたやつを。

知りません。

……え？

今、……なんと？

え？

知りません

そう言いました。

……なるほど。

残念でした。

(こらえきれずに笑つてゐる)

はあ、あの……心当たりなんかも？

ありません。

ありませんよね。

よかつたですわね。

何が？

あなたは今、一步あなたの財布のありかに近づくことができたんですから。

……どうして？

少なくとも私は、あなたの財布なんて、少しも知りません。これが一步。

……ええ、なんだかむしろ遠のいたような気もしますが、一步分。

女 ……でも、どうしても見つからぬと
きには、こちらに戻つていらつしやつ
てもかまいませんよ。だって、この浜
はとても良いところなんですか。
男 ない……ない……ない……ない……

女 ……おかしな方。（再びヘーゲルを読みだす）
花 （すっかりふくれてている）

太陽 いや、別に……邪魔をするつもりはなかつたんです。
花 （そっぽを向く）

太陽 ああ……その、……めんなさい。
花 （ゆつくりと小さく4回、頭を揺らす）

太陽 え、何？
花 （続けて4回、次第に大きく頭を揺らす）

太陽 まさか、

花 （揺らし続けながら）ふん……ふん……ふん……ふん……
太陽 あ、やめなさい。花粉はやめなさい。
花 （かまわづ）ふん……ふん……ふん……ふん……
太陽 だからおやめなさい。僕はあらゆるタイプの花粉に反応するアレルギーがあつて……あ、
くしやみがくしやみが、
花 ふん。
太陽 へつくし。
花 ふん。
太陽 へつくし。
花 花粉がふんふん。
太陽 へつくし。
花 ふんふん。
太陽 へつくし。

女 おかしいわね。もう夜明けからしばらくなのに、太陽はまだあんな低いところにあるもの
かしら……。

太陽 ……ああ。
花 （太陽をにらみつけている）
太陽 いや、…………あの……

娘が小さな脚立を持つて太陽のもとへと向かっている
※ 太陽がくしゃんでいる間から出ていて差し支えない

……（背伸びをして）はい。

あら、…やつぱり気のせいかしら。

（手の上の花粉を息で太陽の方へと吹きかける）

花 へっくし。

太陽 あれ？

（背伸びをして）はーい、失礼しました。

太陽 まあ、よかつた。（ヘーゲルに目を落とす）

太陽 ばーか。…あれ、さつきの人は？

太陽 あ、なんか向こうの方で財布探してます。

太陽 見えるんだ？

太陽 そうです。日なたのところにいればだいたい。

太陽 便利。

太陽 おーい。（太陽を叩いて呼ぶ）

太陽 え？

太陽 おう。

太陽 これ、どうぞ。（脚立を差し出す）

太陽 やや、これはこれはどうも。いつもすみませんね。

太陽は脚立を受け取り、床に置いてそのまま高く上がろうとする
突然、娘は太陽の横っ面をしたたかに殴りつける

娘 痛い！
（殴る）

娘 え、何するんですか？

娘 （じつと手を見ている）…熱い。

娘 …ええ、だって僕、太陽ですから

太陽 痛い！

太陽

娘 花 太 太 娘

んー、…平氣。(ゆっくりと立ち上がる)

あつい…。
(太陽にしなだれかかってそのまま倒れる)
うん、太陽ですから。

しかし、太陽はとっても熱いのだ

男 3

いや、しかしです……え？

男 女 男 女

さつきまで夜だったので、そもそもどこを歩いていたのかさえ皆目わからなくつて…どこをどう探したものかと。

卷之二

男 女

いえ、実はですね。

なくつて…

くつて…

男 女

あら、あなたお財布は
ええ、どうとも見つけ

花

あれ、帰ってきた

そんな中に、男がとぼとぼとした足取りで浜へと戻つてくる

九

卷之三

太陽

痛
い
！

良

設
三

熱い。

男	女	花	女	花	女	花	女	男	娘	男	娘	男	娘	男	男	娘	男	女	男	女	男
とか	なん	とか	とか	とか	はい。	あの、 お財布を落としてしまった	娘	いや、 そうだ。あなた。	どうして そんな嘘をつくんです。	ご用事ですか？	いや、私は別に何も。 ふーん。	あ、嘘ですけれど。	ま、娘と言いましても、白血病で亡くなつた親友の義理の妹のお嬢さんを養子に迎えただけですので、血のつながりはないんですけれど。 ：複雑ですね。	（太陽に） 上がらないの？	娘	（太陽に） 上がらないの？	太陽	あ、忘れてた。 (脚立に上がる)	（男に気づき） あれ？	：え？	娘です。 え？
娘	やつほー。	それを探している	とか、嘘とも本当でもないともつかないことを主張されていて、しかもお財布を見ませんでしたか？……黒い、革財布なんですが。こちらの方、どうも	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	（花に気づいて） おろ？	

はーい。
それあなた。

花

(娘に応えている)

はい。

どこかで見ませんでしたか？ 私の、

革の？

そう。

お財布？

そうです。

どす黒い。

いえ、普通の黒なんですけれども、

見ませんでした？

……(自分を示して) え？

(うなずく)

……だって……探してるんですから、私が。

見ませんでした？

ええ、ですから……見ませんでした。

じや、見ませんでした。

はい？

見ませんでした？

だから、見ませんでした。

じや、見ませんでした。

いえいえいえ、そうではなく。私が聞いてるんです。つまり、あなたが、私のお財布を見ませんでしたか、ということを。……わかりますか？

……あなたが？

そう。

(互いに) 見ませんでした？

たしかに私は見ていませんが、

じや、見ませんでした。

あれ、どうして伝わないんだろう？ …ええ、たしかにあなたにとつて「あなた」は私なんですが、私にとつての「あなた」は、あなたなんです。……(強く) つまりわかりますか？

(不機嫌に) あ？

突然、空から大量のタワシが浜の一角に降り注ぐ

タワシタワシタワシタワシ……

ええー？

（持っていたタワシをタワシが降り注ぐ方向に投げ込む）えい。
タワシだらけ！

娘 女 男 娘

娘はタワシを追いかけて飛び込み、その後、勝手にタワシで遊びだす

あなた、あんまり余計なことを言わないでください。

どうしてタワシが？

海の天気は変わりやすいですからね。タワシが降ることだってそりやあるでしょう。
ごまかさないでください。あの子は何ですか？

まあ、

あの子だ

なんて、自分の娘でもないくせに。

ですから、

（激しく）ごまかさないで

って言つてますでしよう。

先ほどからそんな気色ばんで、何を

花 ⋮どう？

おつしやりたいんです？

太陽

うーん、いまひとつかな。

ですから……どうしてタワシなんか出すんです？

私、あの子を「私」だなんて言わない子に育てたいんです。

⋮何ですって？

自分のことを「私」だなんて言葉で棚に上げて、何か特別なものに仕立て上げようとする
ようなことをあの子にしてほしくない。そういうことです。

⋮どうしてそんなことを？

私、こう思うんです。私たちは、少し「私」という容れものに囚われすぎてやしませんで
しようか？

どうことです。

つまり人は、自分には確固たる「私」なんてものがあると思い込んでしまうからこそ、例
えばその意に反した何かが起こつたとして、そういう時にかえつて不自由になつてしまふ。

ですから私、あの子に「私」なんて言葉を与えないんです。

するはどうなるって言うんです?

とてもやさしい心を持つことができるようになると思うんです。たとえば人が痛みを感じたとき、同じように自らも痛むように。

それ、成功します?

なあに?

私、先ほど娘さんに少しも話が通じ

花

…そうかしら?

ずにほとほと困り果てていたんですが。

太陽

ええ、たぶんですけど。

じやあ、あなた困つてなかつたんじやありません?

困つてましたよ。

本当は落としてなんかないんでしょう? お財布。

落としたんです。42万円。

じゃあ、これからまた探すんですか?

…いや、しかしこどをどう探したものか。

この際あなたが本当に財布を落としたのかはさておいて、また探すにしても、だつたら一度お宅にでも戻られたらいかがです?

…いや、それは、

あきらめの悪い方。

いえ、そうではなく。
え?

帰るところが、ないんです。

…何ですって?

ええ、ですから私には

(ボツリと) 帰るところがない (この後、次第にふさぎ込んでいく)

だつてあなた、現に今いらつしやつたじやありませんか。それなのに、どうして帰ることができないんです?

ええ、それはおつしやるとおりなんですが。
ええ。

実は…つい先日、妻と別れまして。
…まあ。

だから、帰るところがない、と。

卷之三

お仕事??

しばらくは貯金を切り崩しながらや
れ? …どうしました?

りくりをしていたんですが、それもど

うにも立ちいかなくなつて：ついに家を追い出されてしまいました。

ちょっと待ってください。

どうしてその、42万円だなんてたい

どうなお金を持ち歩くことができるん
ですか?

ですから

（明るく）全財産だ！

つて申し上げたんです。結局、貯金

担保に500万円を借り上げて残つては

しかし、もうこうなつてしまつては

ダメですよ、そんなの。

もちろん、そんなことで見つかると、

あるかもしませんから、届出だけでも

「……………」

あなた、いつのお金掉落してござる

あがた いくらの料金を落としたんで
ですから……42万円です。

つまり、たかだか42万円を探してま

(活力なく)
たつかだかー

じやありません。これがどんなに大事

知つてますよ。今、おつしやつたんですから。

だつたらわかつていただけるでしょ、

誰もあなたにとつての価値なんか問題にしちゃいないんです。

あなた、さつきから何が言いたいんです？

税金は払っていますか？

…………は？

あなた、税金はお納めになつておられますか？

……いえ、今は職についてないので。

（小さく）ね、税金つてなに？

つまり、税金は？

太陽

カツアゲみたいなもんです。

だから、払つていません。

花

……ふーん。

日本における警察官の平均給与は年収でおおよそ750万円。ボーナスがざつくり4か月分とすれば、月給は47万円程度となります。ご存知でしたか？

はい？

もちろん、その中からあなたと違つて税金やら社会保障やらを立派かつ強制的に支払つてありますので、手取りはもつと少ないでしよう。

それがどうしたつて言うんです？

ですから、あなたのたつた42万円のお財布を探すために、47万円の警察官に働いていただこうつてあなたの魂胆が卑しいものだと申しているんです。

卑しいですって？

警察官の方の給料つていうのは、あ

なた以外の税金を払つている沢山の方

太陽

（花に）あれ、いいの？

によつて支えられてるんです。

花

ん、飽きた。

わかつてますよ。そんなこと。

いいえ、わかつていないんです。少なくとも肝心なところはちつとも。例えば、たくさん税金を納めてらつしやるお金持ちのヒゲのおじいさんがもしお金を落としたつてことなら、たとえそれが100円だとしても警察の方が探すのは妥当なことかもしれません。だつて、税金を払つてらつしやるんですから。しかして、もしあなたのような税金を払わない方のお財布を探すために、ヒゲの100円を探せなかつたりすることがあればどうでしようか？それに、落とし物とはいえ警察官の方が見つけたんでしたらお礼の1割だつて当然ありません。それなのに、1銭も出さないあなたの財布について、これを警察に探してくださいつてお願いは、これは相當に筋が悪いお話ですよ。

あんまりだ。

あんまりじやありません。とにかく私は、あなたなんかのために税金なんか払いたくはないんですから。

……うう。

そりや、あなたにとつてはそのお財布は、命を懸けた大事なものかもしませんが、広くものごとを捉えてみれば、あなたの42万円なんて、世界にとつてこれっぽっちの意味も価値もありません。

すみません。

まつたく…払うものも払わずに権利ばっかり主張して。あなた、今後は道路を歩くときに
は申し訳なさそうに端つこのほうを歩けばいいんです。

卷之三

（突然会話に参加して）でも、私だったら探すわ。

少しの沈黙

……え？

男 太陽
え？ え？

（男は）かくで工害をらうるのよれ……2万円の工害だから……万2千円　もし2時間くらいで探すことができたとすれば、時給は2万1千円。たとえ3時間だったとしても……

女はいつの間にか立ち上がり、何かを考えこんでいる

（女の様子に気づき）え？

今夜は焼肉よ。

1

パーティ。

花も同様に探そようとするも、花であるから（固定されているから）動けない

男 まずい。ない……ない……

男もつられるように慌てて再び財布を探し出す

大騒乱（※騒動中はどうぞ自由に）

（海の方向に向かって）お客様の中に、42万円をお持ちの方はいらっしゃいませんか？
42万円を現金でお持ち歩きの方はいらっしゃいませんか？

落ち着いてください。そつちは海です。海に何を聞いてるんです。

あなたの、なんてことを言うんです。
(踵を返して探しに戻る)

(娘に) いいですか。服の中までくまなく探すんですよ。

はい。

そうか、服の中か。

(見つからずに焦れて) ぬああああ……

太陽 男 娘 女

太陽はその場から逃げ出して姿が見えなくなる

あたりは急激に真っ暗になる(以下、暗闇の中で声が響く)

真っ暗。

ちよつと太陽さん。戻つていらっしゃい。あなたがいないとあるものだつて探せやしない。

(遠くで) 何ですって?

ですから、あなたがいなくなつてしまふと光がないんです。

あなたこそ、さつきライター持つてらつしやつたじやありませんか。

ライターなんかでどうにかなるものですか。いいから、とにかく戻つていらっしゃい。はいはい。ちよつとお待ちください。

ふおおお……なんじやコイツ。

お待たせしましたー。

太陽

娘

太陽

女

太陽

女

太陽

女

太陽

女

太陽

花

太陽が戻つてくるや、あたりは再び光に包まる

男は財布を探して服の中を探した結果、下着姿でさらに服を検めている
娘はフライパンのような形をした原子爆弾を拾つてひっくり返つて
一同は思い思に、しかし一心不乱に財布を探し続けている
しかし、花だけはすっかりくじけてしまつて花占いを始めている

見つかる……見つからない……見つかる……見つからない……

花はついに泣き出してしまう

娘はいち早く花の異変に気づき、慰めだす

太陽も状況に気づき、女に知らせてともに探す手を止める

太陽はいるべき場所へと戻り、女は遅れて花に寄り添う

一方、男はもはやパンツ一丁になつても、必至に探し続けている

(パンツを覗き込んで) 上から見ても……ない。(体をさかさまにしてパンツを覗き込み)
下から見ても……ない。もう、どこ見てもないじやないの。……あれ?

男

男は力尽きたところで周囲の状況に気づき、おそるおそる立ち上がる

……あの、これは……どうしたことでしょう？

（残った花をむしりながら） 私：お財布を探したか（たの

卷之三

でも私……動けないの。

……当たり前じやないですか。

どうして私こは恨つこなんかが生えてるのかしら。
(花をちぎつては投げる)

何を言つてゐんです?

（ハンガチを差し出して） はい これ

三

涙
?

ありがとう。
(受け取り) そのまま鼻をかむ。

卷之三

娘 ない。それは、少し心が汗をかいて

二二〇〇〇の時、二二〇〇〇年三月三日。二二〇〇〇時、二二〇〇〇年三月三日。

間

(ぼつりと) せめて蜜つて言えよ、このやろう。

卷之三

……いえ、お財布を探して……いたはずなんですが。

ヘンタイ。

ええ？

どうして服を脱いでいるんです？
ですから、お財布を探していたら

ヘンタイ。

違いますよ。

あつたんですか？

：何が？

お財布、見つけたんですか？

：見つかっていません。

ヘンシツシヤ。

はあ？

ちょっととそんな格好でこちらを向かないでください。

ああ、すみません。（いそいそと服を着だす）

まつたく……なんだか興を冷ましてしまいましたね。どうです、一服。紅茶でも入れます
けど。

飲みたい。

あ、私枯れちゃうんで。

あ、僕は飲む前に蒸発しちゃうんで。

あら、そう……じゃ、やめときましようか。

おーい。（弾みで原子爆弾で地面をたたいてしまう）え？

：何これ？

お、忘れてた。

ん？ 何か書いてありませんか？

そこで拾った。

何？ 何の話？

えーと、なんて書いてありますかね？ ちょっと拝見しても。

どうぞ。

一同は娘が手にしている原子爆弾をまじまじと見つめている
その間に、男は服をすっかり着てしまつている

あれ？ ……皆さん、どうかしたんですか？

原子爆弾？

(おうむ返しに) 原子爆弾?

え?

そうですね。紛れもなく原子爆弾ですね。

私、初めて見たわ、原爆って。(持っている携帯電話で画像を撮る)

何ですか?

ええ。

いえね、こちらのお嬢さん。さつき、あなたの財布を探していたときなんですね。

ええ。

これ。

ええ、こちらがそうです。

……は?

……原爆?

あ、ごめんなさい。原爆って言うのは、原子爆弾の略のことです。

知つてます。

そうでしたか。

いや、しかし…

どうしました?

違いませんか、それ。

何がですか?

フライパンじやありません?

だつて、書いてありますよ。「原子爆弾」つて。

ええ、はつきり書いてある。これ、原爆ですよ。

写真、送りましようか?

書いてあるだけでしよう?

書いてあるからでしょう。

……何ですって?

「原子爆弾」つてここにある以上、これ、原子爆弾以外の何者でもないんじやないかしら?

いやいや、それ、原子爆弾以外の…フライパンでしかありえないでしょう?

どうして?

どこからどう見てもフライパンの形をしているじゃありませんか。だったら、それはフライパンです。

あなた、好きなおっぱいってあります？

間

……は？

あなた
好きなおへいの形は？

火引持の間伐

聞いているのは私ですよ
あなた
こんなたぐいの男が好きだんですね
こんなこと何度
も言わせないでください。

ええと……そうですね、あの……

卷之三

おわん型の

おわん型の？

……私はおっぱいが大好きです。

間
異以外の全員の荷総が、本格本格の崩の品定めをする。三日開て、

問

ごめんなさい。

明詩

が
び
ん。

期待はずれ。

あ、だつたら僕、結構自信あるかも。

いりません。

明寺はん

其行は一

いいえ、今あなたがおっしゃ

七

……え？

あなたが好きなのは？

わん型のわい?

（原子爆弾を取り上げて）では、こちらは？

……ライパン型の……原爆？

おおー。
(拍手を送る)

(指笛を吹こうとするが)

何だ、話せばわかる方じやありませんか

之
?

(原子爆弾をもつ

半財布でしたね？

ええ そうですか

い
で
す
?

「一畠田二畠田三畠田四畠田五畠田六畠田七畠田八畠田九畠田十畠田」

どうせ拾つたものですから、ど

うなさうと構いやしませんよ。

だってこれ、違うじゃありませんか

あなた、この期に及んでまだそんな

「ことをおつしやるんですか？」

レヤ たゞでこれ ども見てモノテイ

あなた

ハ
ン
・
・
。

そんなことだから、奥様に逃げられるんですよ。

どうして今、妻の話になるんです？

そうやつて目先の情報ばかりに振り回されて、奥様のことを本質からきちんと見ちゃいません？

そんなこと、事情も知らない他人のあなたなんかに言われたくないありませんよ。そもそも、妻に逃げられたんじやありません。私が家を追い出されたんです。

まあ、情けない。

だつて本当なんです。元々は妻の方から惚れて押しかけてきて始まつた関係なのに、仕事がなくなつてからというもの、最近じやすつかり小言ばっかりで……冗談じやありませんよ。

あなた、本当にヘーゲルさんを読まれたらいかがです？

ヘルに關係なしてしまふ

可之

卷二

どういうことです？ 少し考えればわかる話じやありませんか。どうして奥様があなたにつらく当たるのか。

それもすべてこのへ

ヘーゲルさんが？

ええ、そうです。

4

カワセミ十?

あなた、アウフヘーベンも知らない

卷之三

アウフ

アウフヘーベンというのは、これはヘーゲルさんの弁証法において極めて

対立する2つのテーマ、すなわちテー

ゼとアンチテーゼを設定し、これを互

とにより、より高次のテーマであるジ

とです。わかりますね？

いえ、ひとつもわかりません。

女 男

だけでなく、その両方の意見を包括するような上等な意見を作り出しましょ、という考え方のことです。

それは：いいと、どり、ということでしょうか？

そのとおり。

違います。

違うの？

すいません。

わかりました。では簡単な例で考えてみましょうか。

いえ、私は結構、

結構ですか、そうですか。そこまでおっしゃるんじや仕方ありません。

あのね、

(さえぎつて) 例えれば。

……はい。

娘・花 例えれば？

男と女。これは明確に対立し得るテーマであるということができます。わかりますか？ええ、それはまあ。

では、この相対する2つについて、さつそくアウフヘーベンしてください。

はい？

男と女。これを同時に否定しつつも包括するものを考えてみればいいんです。えーと……つまり……

簡単ですよ。

花 男と……女……

どっちでもなく、それでいてどっちもあるような、ということでしょうか？

そうそう。男とも女とも断じること 花 私、どっちもあるんだけど。はできないし、しかして男でも女でも 娘 ほうほう。

あるという……

花 え、じゃあ答え、「私」。

……わかりました。答えは「人」です。これなら男と女とを分けることはできないし、かつ、男も女も、すべて人です。

やつぱりあなた、話せばわかる方です。

す。

やあ、ありがとうございます。

花 知つてます。

さ、例題が終わつたところで本題に入りましょう。

はい。

では、あなたにやさしい昔の奥様と、あなたに厳しい今の奥様をさつそくアウフヘーベンしてみましょう。すると、きっと奥様の真の姿が見えてくるはずです。

なるほど。えーと…

えーと…

知らんでしょう？

知らん。

すみません。これはすっかりわかりません…やはり、私が悪かっただんでしようか。ご心配なさらずとも結構です。すべてヘーゲルさんが解決してくれます。

と、どうと?

つまり、愛です。

卷之三

2

卷之三

お名前のことしゃありません

え？

ラブの方です。

ラブ?

あなた

文で説明ができます。

と、言いますと？

あなたにやさしく

はたして

どうしてそうなるんでしょう？

だつて

つてい

必要なんてありません。

はあ：なるほど。

ですから奥様は、あなたに対して乾坤一擲、奮起を促すつもりで、そういういた心にもないでしようか。

…では、私と妻は…まじやり直せるチャノ

卷之三

私、妻から1日5回は「死ね」って言われるんですが、それは逆に、

かんにわ
にてごとてす

それは「死ね」ってことでは？

女 警官 あらら。

男 警官 ああ、すみません。ちょっと急いでいたもので。

女 警官 いえ、あの、こちらこそ申し訳ありません。

男 警官 あの、お怪我は？

男 警官 大丈夫です。お宅様こそお怪我は？

男 警官 おや、警察の方ですか。

男 警官 ええ、私、△自由△と申します。※ 初演時は俳優の本名

男 警官 ちょうど良かった。（原子爆弾を差し出して）あの、これなんですかけれど。

男 警官 はい、どうしました？

男 警官 これ、拾い物なんですけれど、預かっていただけますでしょうか？

男 警官 ああ、拾得物ですね。結構ですが、これはどちらで？

男 警官 （適当に）あ、もう△△です。すぐそこ。

男 警官 どこですか？

男 警官 お願いできますか？

警官 …ええ、ま、承りますが。

男 警官 ありがとうございます。これ、原爆らしいんですが。

警官 （受け取つて）原爆？

男 警官 ええ、フライパン型の。ですので、あの、もし落とした方がいらっしゃなくとも、私、とうてい引き取れませんので、どうぞ警察の方で処分してください。

警官 ……原爆？

男 警官 あの、では私、急いでおりますからこれで。（走り出す）

警官 いや、あの…え？

男 男はそのまま去ってしまう

花と太陽は、警官が現れて以来、すっかり生氣を失っている

警官 あ、これはどうも。

女 娘 ご苦労様です。

女 警官 ご苦労様です。

女 警官 今の方は……ずいぶんお急ぎのようでしたが、お知り合いでですか？

（首を横に振りながら）いいえ、まったく存じ上げません。

警官 そうでしたか。…これ、原爆らしいんですが、こちらについては?
女 (首を縦に振りながら) ええ、まったく存じ上げません。
警官 なるほど……困ったな。
女 なにか、ご用ですか?
警官 そうだ。しまった。さつきの人にも聞けばよかつた。
女 何ですか?
警官 ええ、実はですね。このあたりでお財布を拾ったという届け出がありましたもので、それで落とした方でもいらっしゃらないかと。
女 お財布? どんな?
警官 ええ、黒い革の、たいそうなお財布なんですが、まあ中身もずいぶんとたいそうでして。
女 ええ。
警官 40万円以上入ってるんです。しかし、落としたという届けはありませんし…そういう、お財布を落として困っている方にお心当たりはありませんか?
女 いえ、残念ながら。
警官 そうですか。…お嬢さんも?
娘 ……………ん? (自分のことを指さす)
警官 ええ、もちろん。
女 (目を見開いて娘を見ている)
娘 (驚いたような、困ったような様子で) んんん…。
警官 (女に) さつきの方、何かおつしやつていませんでしたか?
女 ……いえ、特別なことは何も。
警官 わかりました。では、もし心当たりなどありましたら、交番までご一報ください。
女 承知いたしました。どうもご苦労様です。
警官 では、私はこれで。失礼します。
娘 タワシ…。
警官 この後、断続的にタワシが降るのは午後から、ということだったんですが。
おや、予報ではタワシが降るのは午後から、ということだったんですが。

警官が敬礼のうえ、立ち去るうとしたところ、空からひとつ、タワシが落ちてくる

天気予報なんて、あてになるものじやありませんよ。

まあ、それもそうですが。

つい先ほどだつて、夜明けの通りタワシだつて降りましたし。

あ、そうなんですか。

まだ何か？

：いえ、すみません。では、私はこれで。

ええ。

警官

女

警官はそのまま原爆をもつて立ち去る

沈黙

おもむろに女はヘーゲルを投げ捨て、新たにウイトゲンシュタインを取り出して読みだすときどきに落ちるタワシと娘の声が響く

一度だけ、娘の「タワシ」が違う言葉を発しても良い

【二幕】

太陽は、ゆっくりと夕日の位置に向かつて移動している

花

種を明かせば……朝日が明るいって
いうのは正しくない。もちろん、昼間
のそれが一番明るい。明け方白んだ空
にあの丸が飛び込んで、目を焼き
始めるから眩んでしまう。だから夕日
が暗い道理も立つ。あの昼間に睨めば
つぶれそうのが、ゆっくりとその姿
を隠してしまうだけのものだから……。
どちらもおんなじ暗い太陽。要は、認
識の違ひだけなのだ。

太陽

まあ、僕は太陽ですから前とか後ろ
とかがある訳ではないんですけど、仮に
前が朝日だとすれば、下は昼で後ろは
夕方な訳で……。つまり、僕は朝日のよ
うでも夕日のようでもあつて、かとい
つてそうでもなくつて、そんな僕のあ
りか、いや、あかりを勝手に決めてい
ただきたくはない訳で……。そんなこん
なでお母さん。僕は今日も元気に核融
合反応を繰り返しながら生きている訳
で……さて、夕方です。

いつしかタワシは降りやんでいる

卷之三

女はベンチに寝転がり、夢中でウイトゲンシュタインを読んでいる

娘は済にタツジを植えでいる

そうした沢の風景を夕日の位置から太陽が照らしているたまに風が花を撫でてやらしているが、その風（「そよ

力には風が花を揺でて吹きしめていたが、その風（二番句）はとても弱い

花
(大きく風に当たり) そよそよそよそよそよ……

沈默

拾
元

それ、
なこ？

んーとね……農業。

農業

卷之三

うん。

芽が出できたら教えてくださいね。
光合成
させ

二十九日 月夜の風景

だって、顔見えないし。

二十九
三十九

ま、曇つてなナヘザ。

あのね、太陽さん。
私、
およしなさい。

太陽
僕を好きになつてはいけない。：たとえ好きになつたとしても、それを口に出してはいけ
ない。

それで、さつそく離婚届に判を押してくれ、と言われまして……押してきました。

今ごろはもう、すつかり他人です。法的に。

あなた、ちゃんと謝りました？

もちろんです。土下座だつて

た。それに…あなたから伺ったヘーゲルさんのアウフヘンヘン、

アウフヘーベン。

そう、

アウフノジ

の話について

うにも…。

奥様はなんごつござつたんです?

まあ、捕まつても殺せるんだつたらまあいいか、と……そう思つただけだつて……。

卷之三

卷之三

二愁傷様です

あなたのヘルヘルさんも、何の役にも立たなかつたつてことですね。

：「一ゲルなんかに頼るからよ。」

え？ だつて、それはあなたが

（ウイットゲンシュタインを掲げて）今、私はウイットゲンシュタインを読んでいます。

……ウイトゲン？

あなた、ウイトゲンシュタインさん知らないんですか？

すみません。

仕方ありません。では、ウイグルシユタインとは何か：いいですか、

（應つて） はえ、本当に……もう、結構です。

（本を置く）

「やあ、二十九日はうたれる

ええ、どうしたらいいんでしようか：

男 太
陽

女 太陽 太陽 娘 花 男 花 男 女 男 花 男 女 男 女

金もないのにどこにも行けませんし。……とりあえず、あなたがおっしゃった、ええ。

ここはとても良いところだ、というのを思い出して戻つてしましました。

（長く、高く）そよそよそよそよ……

…私、こちらにいさせていただいてもよろしいですかね？

…結構じゃないかしら…だって、この浜はとても良いところなんですから。（太陽に）どうかしら？

…結構、じやありませんか？

…結構、だと思います。

ありがとうございます。

それじやおひとつ、いかがです？（煙草を取り出す）

…え？

お近づきのしるし、って訳でもありませんけれど、よろしければ。…あなた、吸われる方かしら？

いや、それは、

あ、ごめんなさい。

その、昔は吸っていたんですが、

…ええ。

妻が苦手だったものですから、もう何年も…。

…そう。（自分で吸い出す）

せつかくですが…遠慮しておきます。

…あれ？

（娘に気づいて）おや…お嬢さんは何を？

農業ですって。

…農業？

…だよね？

うん。

春には芽が出ますかね？

…ヤシの？

いいえ、タワシの。

ねえ、ちょっとお伺いしてもいいかしら？

…どうしました？

あなた、煙草はやめられたんですね。

ええ、妻が嫌いなものですから。

そしてあなた、ついさっきその妻…正確に言うと元妻と、別れてきたんですね？

申し上げたとおりです。

だったらあなたは…いつたい何のために今、煙草をやめてらっしゃるんですね？

女 男 女 男 女 男

間 男はあたりを見渡してみたりしている

あの、お煙草いただいても？

どうぞ。

すみません。（受け取る）

いいえ。

では、私も失礼して。

男 女 男 女 男

男は煙草に火を点けようとするが、どうやらガス切れで火が起こせないようだ

……つかないな。

じゃ、こちうらどうぞ。

え？

女 女 男

女は自らが咥えた煙草を示して差し出している

…それじゃあ。

男

男は女の煙草から直接火を貰う

女はその後、自分の煙草の火を消して、その灰皿を男の下へ差し出す

…どうぞ…。

…どうも…ありがとうございます。

女は再びウィトゲンシュタインを手に取り、読み始める
男は煙草を燻らしながら海の方を見ている

そのうち、女はウイットゲンシュタインから田を離し、同じように海の方を見やる

(小さく) そよそよそよそよ……

花

沈黙

なんだか、落ち着きませんね。

そうかしら。

ええ。やはり……私にはここにいる理由が少ないもので、
だったら、結婚でもしてみましょうか?

え?

私と……あなたと。

……いや、しかし、

さつき、キスしましたでしよう?

……（煙草を見て）ああ。

ね?

……考えときます。

つれない方。

タワシ…。

娘

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

娘は埋めようとして手に持っていたタワシをやおらに投げ捨てる
その後、娘はこれまで植えてきたタワシを掘り起こしては捨てていく
原子爆弾を手にした警官が現れる

警官

あのー、すみません。

……あら。

え?

（男に）あ、あなた。ちょうど良かった。あの…ちょっとよろしいですか?

はい…（煙草を消して）……ええ、何でしよう。

あの、先ほどお預かりした、これなんですが。

ああ、原爆ですか、これが何か?

その、原爆とおっしゃられていた、これなんですが。

……ええ。

警官 お返します。

男 え？

警官 ええ、ですからお返しをさせていただきたい、と。

男 いや、だつて……私だつて拾つたものですから。持ち主がないんであれば、引き取つてくれださいよ。

警官 ないんですよ。

男 何がですか？

警官 これ、一度持ち帰つて、上長とも相談したんです。

男 ええ。

警官 原爆なんて、日本にはないんです。

男 いや、だつて現に

警官 もしこれが原爆であつて、それをあなたが拾得されたということであれば、もちろん調査しなくちやいけませんよね？ これが、本当に原爆であるかどうか。

男 知りませんけど、必要なら調査をすればいいじやありませんか。

警官 非核三原則つて、ご存知ですか？

男 はい？

警官 ですから、原爆なんてものは日本には存在しないんです。

男 さつきからあなた、何をおつしやつてるんですか？

警官 何も申し上げてはいません。

男 何ですって？

警官 そもそも原爆を拾うなんてことないんです。ですからこれ、処分することもできませんし、したがつて、それを届け出たあなたにお返しするしかできないんです。おわかりでしよう？

男 わかる訳がないじやありませんか。だつたら……これは何だつて言うんです？

警官 わかりません。

男 じやああなたは、私に何をお返しされようとしてるんです。

警官 何もお返しはしないんです。

男 ここにあるじやありませんか、原爆が。

警官 あえて申し上げれば、正当防衛なんです、これは。

娘は埋められたタワシを掘り起こしながら、いつのまにか浜の先までたどり着いている

最後のタワシをじつと見据えながら、タワシの先にある海の方へと顔を向けている

男 ……正当？

警官 はい。つまり、出された拳に反射的に拳を返す、というような……。私には、これが何であるか、語り得ることばを持つていらないんです。そして、語り得ぬものについて我々は、（「黙れ」の意味で遠く海に向かい）シーハハマ！

娘の言葉が続いている間に、浜にいる全員は海の方をまっすぐに向いている

花 娘 娘 花
(娘の長い言葉が切れるのを待ち、ささやくように) バハマ。
(タワシを高く掲げて覗き込むように) タワシと、わたシー。
(娘に重ねて、高く) シー…………

爆発のように明るい閃光に浜の一帯が包まれる

花 (娘の言葉が切れた後、強く) バハマ！

閃光が消え行く中、花を除いた全員の首がころりと転げる

幕

【参考文献】

『方法序説』ルネ・デカルト
『論理・哲学論考』ルートヴィヒ・ヴィートゲンシュタイン